



## 「再生兵庫の実現へ」

兵庫県知事 井戸 敏三

### 兵庫の緊急課題

#### (新型インフルエンザ対策)

五月に国内で初めて感染が確認された新型インフルエンザ問題につきましては、多くのご心配と励ましをいただき感謝します。今回の事案を教訓として、国を挙げて備えを強化しなければなりません。

本県では、五月十六日の感染確認後、新型インフルエンザ対策計画に基づき、直ちに、二十四時間体制の発熱相談窓口の設置や発熱外来の整備に加え、学校や通所施設等への臨時休業要請、大規模集会等不特定多数の集まる活動の自粛要請など感染ルート限定と校区単位の規制を行い、患者治療と感染拡大防止に全力で取り組みました。五月十八日の全国知事会議では、大阪府と共同提案した「新型インフルエンザ対策に関する緊急決議」が採択され、当日来会された舩添厚生労働大臣に早速提案しました。

これらの対策により、感染の拡大防止に一定の効果が現れる一方で、県民の社会生活に多大な影響が生じていること、また、政府が新たに示した「基本的対処方針」を踏まえ、社会活動の面的規制を解除するなど実情に応じた取組の転換を行いました。現在、兵庫県内では、これまでどおり、通常の県民生活を取り戻しつつあります。

兵庫は、何も地域として新型インフルエンザの感染地域となっているものではありません。地域全体が懸念される地域として、出張禁止や催し不適切地域とする取り扱いがぜひ改めていただきたいのです。ともあれ、今回の対応や課題を検証し、新型感染症の発生に対する警戒を怠らないよう、万

全の対策で臨みます。

#### (緊急経済雇用対策)

緊急経済雇用対策も、兵庫が全力で立ち向かう緊急課題です。

本県経済は、三月の鉱工業生産指数が六カ月ぶりにプラスに転じるなど、景気の下げ止まりの兆しも見られますが、輸出は六カ月連続でマイナス、百貨店、スーパーの売上等は依然として前年を下回り、雇用情勢も有効求人倍率が〇・五倍台まで低下するなど、全体としては、未だ厳しい状況が続いています。新型インフルエンザ発生による地域経済への影響も懸念されます。

こうした中、昨秋以来、数次にわたる対策を講じ、二十一年度当初予算においては、二十四年度補正予算と一体として執行する十四カ月予算とするなど、緊急の経済対策と雇用の安定を図ってきました。

また、五月には、国の経済危機対策に呼応し、本県経済の底入れからの回復に繋ぐとともに、新型インフルエンザ発生の影響を早期に克服するための補正予算を編成し、臨時議会で議決いただいたところです。今後、実需の創出や環境対策など未来につながる幅広い対策を実行し、県民生活の安定をめざします。

#### 新時代の兵庫づくりと二十一年度の県政

平成十三年に策定した21世紀兵庫長期ビジョンが中間年を経過しました。これまで、創造的市民社会、環境優先社会、しごと活性的社会、多彩な交流社会の四つの社会像の実現をめざし取り組んできた中で、新しい課題も見えてきました。総人口の減少と少子化、高齢化、地域間の偏在という量質両面からの人口問題への対応とともに、世界

の地域が直接つながる時代を迎え、地球的視点で地域のあり方も問われています。このため、県民の参画と協働のもとで長期ビジョンを見直し、これらの課題への対応策を明らかにしていきます。

平成二十一年度は、阪神・淡路大震災の復旧復興の過程で生じた債務の解消を基本方針に策定した新しい行財政構造改革推進方策―新行革プラン―が実質的にスタートする年です。緊急経済雇用対策で足下の基盤を固め、新行革プランでしっかりと県政の枠組みを構築し、長期ビジョンの見直しで未来の兵庫づくりを共有する。これらを基調として、平成二十一年度は、

- I 活力を生む元氣な兵庫
- II 質の高い生活をめざす兵庫
- III 交流と連携を進める兵庫
- IV 家庭と地域が支える兵庫
- V 安全安心をつくる兵庫

の五つの柱を基本に、再生兵庫への布石となる施策を展開します。

県政を取り巻く環境が厳しい時代だからこそ、参画と協働を基本姿勢として、県民本位、生活重視、現場主義の県政を推進し、ふるさと兵庫を確かに再生していきます。

兵庫では、JRグループとタイアップして、「あいたい兵庫デスティネーションキャンペーン」を展開しています。四十五年ぶりの本格修理を控えた世界文化遺産「国宝姫路城」、全身骨格発見の期待が高まる恐竜化石「丹波竜」、野生復帰が進む特別天然記念物「コウノトリ」など兵庫の多彩な魅力を全国に発信しています。地域の多様性と個性を強みにして、震災復興を乗り越えた底力で再生をめざす元氣な兵庫に、是非お越し下さい。